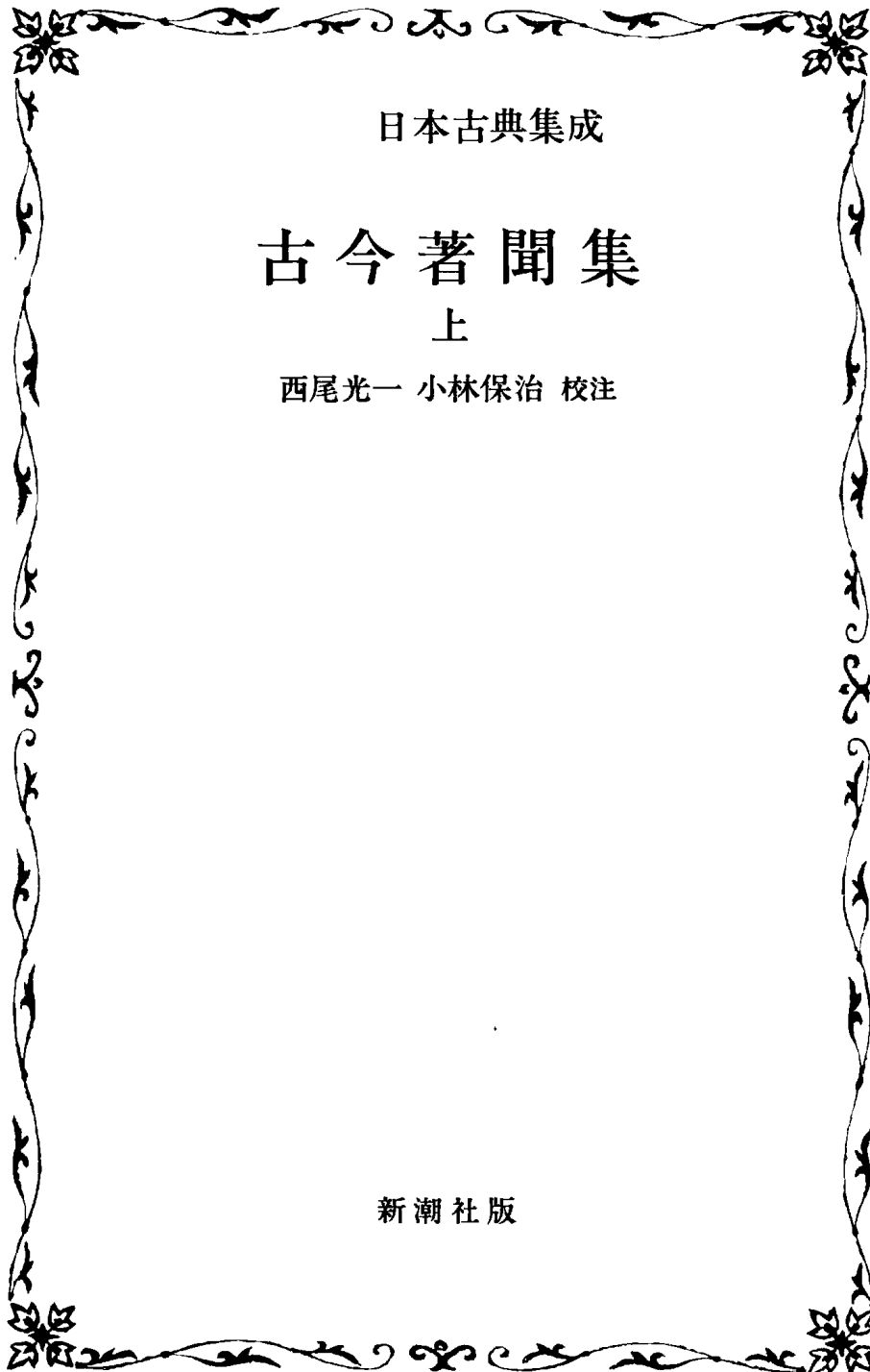




A decorative border with a repeating floral and vine motif surrounds the text.

日本古典集成

古今著聞集  
上

西尾光一 小林保治 校注

新潮社版

新潮日本古典集成 (第五九回)

古今著聞集 上

定価二五〇〇円

昭和五十八年六月五日 印刷  
昭和五十八年六月十日 発行

校注者

西尾光一  
小林保治

発行者

佐藤亮一

印刷所

大日本印刷株式会社

発行所

株式会社 新潮社

〒一六二 東京都新宿区矢来町七一  
電話 東京03(二六六)五一(業務)  
東京03(二六六)五四(編集)  
振替 東京 四一八〇八

装画 佐多芳郎

組版 シーティエス大日本

製本 加藤製本株式会社

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

© Koichi Nishio, Yasuharu Kobayashi, Printed in Japan, 1983.

ISBN4-10-620359-6 C0393

目次

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 古今著聞集上 細目       | 三   |
| 凡 例             | 二   |
| 序               | 二七  |
| 卷第一 神祇第一        | 三   |
| 卷第二 釈教第二        | 六七  |
| 卷第三 政道忠臣第三・公事第四 | 一三三 |
| 卷第四 文学第五        | 一五九 |
| 卷第五 和歌第六        | 一五五 |

|       |               |     |
|-------|---------------|-----|
| 卷第六   | 管絃歌舞第七        | 二八五 |
| 卷第七   | 能書第八・術道第九     | 三四五 |
| 卷第八   | 孝行恩愛第十・好色第十一  | 三六五 |
| 卷第九   | 武勇第十二・弓箭第十三   | 四〇八 |
| 卷第十   | 馬芸第十四・相撲強力第十五 | 四三四 |
| 解     | 說             | 四七三 |
| 付     | 録             |     |
| 主要原漢文 |               | 五二九 |
| 図     | 録             | 五三四 |

古今著聞集 序 ..... 二七

古今著聞集 目録 ..... 二九

古今著聞集 卷第一 ..... 三

神 祇第一 ..... 三

一 (序) 天地開闢以來神祇祭祀の事 ..... 三

二 内侍所焼亡の事 ..... 三

三 貞崇法師勅命念仏の折、稻荷神託宣の事 ..... 三

四 新羅明神、三井寺に垂迹して和歌を託宣の事 ..... 三

五 慈覺大師如法經書寫の折、住吉神託宣の事 ..... 三

六 北野宰相菅原輔正、安樂寺に塔婆造営の時、聖廟託宣の事 ..... 三

七 上総守時重、夢に日吉十禪師の神感を受け、神詠を賜る事 ..... 三

八 延暦・園城兩寺天台座主を争ふ事 ..... 三

九 伊勢の荒祭宮、度々の託宣により、祭主大中臣佐国を配流し、また召還せしめたる事 ..... 三

一〇 上総国一宮の若宮誕生の託宣に依り、明珠を得る事 ..... 三

二 貴船沈没に逆鱗の宣旨に依り、広田社の辺の木一夜に枯るる事 ..... 三

三 孔子の夢の告に依り、大学寮の廟供に猪鹿を供へざる事 ..... 三

三 春日大明神の託宣に依り、知足院忠実還任の事 ..... 三

四 右衛門督源頼通、公卿勅使となり宸筆の宣命を落す事 ..... 三

五 周防国島明神靈驗の事 ..... 三

|                                                |    |
|------------------------------------------------|----|
| 六 賀茂社司左衛門大夫源康季神慮に叶ふ事                           | 四八 |
| 七 大宮大夫源師頼、祈雨奉幣の宣命を作り、神感ありて降雨の事                 | 四八 |
| 八 興福寺別当隆覚法印、軍兵を發し反對派の衆徒を攻め寺を焼かんとするに、春日社神異の事    | 五〇 |
| 九 徳大寺実能の熊野詣と隨行の垢離禱の事                           | 五一 |
| 一〇 後徳大寺実定、昇任祈請のため春日神社・巖島神社に参詣の事                | 五二 |
| 一一 賀茂大明神、仁和寺辺の女と祝久継の夢に、日本国を捨て給ふべき由託宣の事         | 五三 |
| 一二 高倉院巖島御幸の折、自ら願文を草し給ふ事                        | 五五 |
| 一三 興福寺の僧八幡に参籠し、夢に春日・八幡兩大明神の託宣を得たる事             | 五七 |
| 一四 八幡に通夜の夜、夢に北条義時は武内宿禰の後身と知る事                  | 五八 |
| 一五 前摂津守橘以政、四位の申文を賀茂社に捧ぐる事                      | 五九 |
| 一六 俊乗房重源、東大寺建立の願を發し大神宮に参籠の事                    | 六〇 |
| 一七 盲人熊野社に祈請、夢に先世の報を知らされ、懺悔して明眼を得る事             | 六〇 |
| 一八 助僧正覚讀、夢に若王子託宣の歌を賜る事                         | 六一 |
| 一九 河内守繁雅、賀茂の御前にて中原師方大外記拜任を夢に見る事                | 六二 |
| 二〇 前大和守重澄、賀茂社・稻荷社に祈請して兵衛尉となる事(抄入)              | 六三 |
| 二一 大夫史小槻淳方、賀茂社に参籠し、夢に神の告あり、禰宜祐頼の子祐繼を師としたる事(抄入) | 六四 |
| 二二 二条宰相藤原雅経、賀茂社に日参、利生を蒙る事(抄入)                  | 六五 |
| 二三 伊予守信隆、神事を怠り家居焼亡の事(抄入)                       | 六六 |
| 古今著聞集 卷第二                                      | 六七 |
| 釈 教第二                                          | 六七 |
| 品(序) 百済国より仏教伝來の事                               | 六七 |
| 一 聖徳太子、物部守屋を滅して仏法を弘め給ふ事                        | 六八 |
| 二 当麻寺と当麻曼陀羅の事                                  | 七二 |
| 三 行基菩薩、昆陽寺を建立の事                                | 七三 |

|   |                                 |    |
|---|---------------------------------|----|
| 六 | 嵯峨天皇宸筆の心経と弘法大師の御記の事             | 七  |
| 元 | 伝教大師渡海の願を遂げんための作善と宇佐宮託宣の事       | 九  |
| 四 | 智証大師の帰朝を新羅明神擁護し、園城寺再興の事（抄入）     | 八  |
| 四 | 聖宝僧正、東大寺東坊に住み鬼神を退散せしむる事         | 五  |
| 四 | 貞崇禪師、金峰山の阿古谷の龍の神変について述ぶる事（抄入）   | 五  |
| 四 | 香隆寺僧正寛空法験の事                     | 七  |
| 四 | 寛忠僧都、行業つもり靈験すぐれたる事              | 六  |
| 四 | 貞崇法師、火雷天神と問答の事                  | 六  |
| 四 | 淨藏法師、己が前生の骸骨を見たる事並びに験者修入と験くらべの事 | 六  |
| 四 | 空也上人、念仏三昧を弘むる事                  | 六  |
| 四 | 千観内供、空也上人の教へにて遁世、阿弥陀和讃を作る事      | 六  |
| 四 | 一乘院大僧都定昭法験の事                    | 六  |
| 四 | 大御室性信親王有験の事                     | 六  |
| 四 | 永観律師往生極楽の事                      | 九  |
| 四 | 平等院僧正行尊靈験の事                     | 九  |
| 四 | 大原良忍上人、融通念仏を弘むる事                | 一〇 |
| 四 | 大原山の住人少将の聖、三十余年常行三昧の事           | 一〇 |
| 四 | 宇治左府頼長、定信人道を礼拝の事                | 一〇 |
| 四 | 慈心房尊恵、閻魔王の屈請に依りて法華経転読の事         | 一〇 |
| 四 | 西行法師、太峰に入り難行苦行の事                | 一〇 |
| 四 | 蓮華王院後戸の辺に功德水出づる事                | 一〇 |
| 四 | 平清盛、福原にて持経者千僧の法華経転読の事           | 一〇 |
| 四 | 高倉院の御時、内裏の最勝講に澄憲法印祈雨の事          | 一〇 |
| 四 | 解脱房貞慶、法文宗義を談ぜざる事                | 一〇 |
| 四 | 鎌倉右大将源頼朝、善光寺如来の印相の不思議を語る事       | 一〇 |
| 四 | 源空上人念仏往生の事                      | 一〇 |

高弁上人、例の人に非ざる事

越後僧正親敵の持ちたりける法華經の事

後鳥羽院、聖覚法印に一念多念の義を尋ね給ふ事

長谷觀音、宝珠を准后藤原家実に賜ふ事

大中臣親守・長家大般若經書写の事

檢非違使庁の結縁經再興の事

生智法師渡唐の時、觀音の利生を蒙る事

湛空上人、涅槃会を行ふ事

書写上人法華經書写功德につき、炎魔宮より申し送りの事

### 古今著聞集 卷第三

#### 政道忠臣 第三

三(序) 君は仁を以て臣を使ひ、臣は忠を以て君に仕へ奉る事

寛平法皇、延喜聖主に御遺戒の事

菅原道真、醍醐天皇の乾臨閣遊覧を諫め奉る事

村上天皇、政道を年長けたる下部に問ひ給ふ事

大納言齊信の消息に、先代には節会の袍借献とありし事

後朱雀院、右大臣実資に仰せて装束の過差を止めらるる事

小野宮実頼・九条師輔、藤原朝光・濟時兄弟、藤原良実・実経等同車の事

後三条院、權左中弁隆方を越えて実政を左中弁に任ぜられたる事

後三条院、律令格式に違はざる旨宣命に書き給ふ事

大江匡房、道理にて取りたる物、非道にて取りたる物をわけ、各一艘に積み帰京の事

寛治八年内裏焼亡の際、中御門の右府宗忠宿侍の事

徳大寺の左府実能、右大将昇任の翌年鳥羽院の強き要請にて、中院の右府雅定左大将に任命せられたる事

|   |                                |     |
|---|--------------------------------|-----|
| 公 | 葉室光頼、その子光方の着駄の政を見て辞状を書く事       | 一四一 |
| 公 | 帥大納言隆季、福原遷都大神宮の神慮に叶はざる旨、夢に見たる事 | 一四二 |
| 公 | 前右兵衛佐頼朝の謀反につき群議の事              | 一四三 |
| 公 | 事 第四                           | 一四四 |

|   |                                             |     |
|---|---------------------------------------------|-----|
| 公 | (序) 年間の公事の典札一に非ざる事                          | 一四五 |
| 公 | 藏人能通、臨時の祭の舞人を辞し、侍従たりし宇治殿頼通、これに代りたるを見物の事     | 一四六 |
| 公 | 堀河右大臣頼宗、束帯にて殿上の日給にあふべしとの起請を破る事              | 一四五 |
| 公 | 権大納言行成、大納言齊信の失錯を屬に注す事                       | 一四六 |
| 公 | 宇治の大納言隆国、臨時祭の陪従を勤むる事                        | 一四七 |
| 公 | 進士判官経仲、樹上の兒を勘問の事                            | 一四七 |
| 公 | 関白師実家の臨時客の後に隨身に着衣を授くる事                      | 一四八 |
| 公 | 左近将曹久季、豊明節会にまづ膝突を敷きて外記を召す事                  | 一四九 |
| 公 | 崇徳院の拝礼に八条の太政大臣実行一拝再致の事                      | 一四九 |
| 公 | 藤原頼長、最勝講の講読師座の立て様につき僻説による差図を悔いて怠状を送る事       | 一五〇 |
| 公 | 保元三年の正月、長元以来中絶の内宴再興の事                       | 一五一 |
| 公 | 後白河院御熊野詣の折、紀伊国司御前に松煙を積む事                    | 一五二 |
| 公 | 九条兼実節会の際、物を食ふやう沙汰し、節会の内井実房まづ食を取る事           | 一五三 |
| 公 | 中山の太政大臣頼実、県召除目に筥文の三の説を夜ごとに換へてとる事            | 一五四 |
| 公 | 光明峰寺の左大将道家、京官除目にさきの人の置違へたる硯宮を置改めたる事         | 一五五 |
| 公 | 後鳥羽院、内井の作法を藤原基房に習ひ給ふ事                       | 一五六 |
| 公 | 後鳥羽院、白馬の節会習礼の事                              | 一五六 |
| 公 | 順徳院御位の御時、賭弓の行事を模し主上の御まねなどして戯れ、後鳥羽院の逆鱗に触れたる事 | 一五七 |

文 学 第五

- 二〇六 (序) 文学の起源と効用の事 ..... 一五九
- 二〇七 百済国より博士、經典を相具して来貢の事 ..... 一六〇
- 二〇八 大江朝綱、夢中に白楽天と問答の事 ..... 一六〇
- 二〇九 天曆の御時、大江朝綱・菅原文時に白氏文集第一の詩をえらばしめ給ふ事 ..... 一六一
- 二一〇 源相規の安樂寺作文序に天神御感の事 ..... 一六一
- 二一一 橘直幹が秀句を齋念上人偽りて自作と称し披露したる事 ..... 一六二
- 二一二 渤海の人、大江朝綱が秀句に感涙を流す事 ..... 一六三
- 二一三 都良香、竹生島に参りて作詩し、并財天の夢の告を蒙りて下句を得る事 (抄入) ..... 一六四
- 二一四 源為憲、大江以言の佳句披講の座にて感泣の事 ..... 一六五
- 二一五 式部大輔永範、宝莊嚴院の詩歌合せの折秀句の事 (抄入) ..... 一六六
- 二一六 元稹が秀句に隠君子感銘の事 (抄入) ..... 一六六
- 二一七 鬼神、菅原文時の家を拝する事 ..... 一六七
- 二一八 大内記善滋保胤、匡衡・斉名・以言等を評する事 ..... 一六八
- 二一九 大江匡房、高麗より要請の医師派遣を断る返牒に秀句の事 ..... 一六九
- 二二〇 大江匡房、夢想によりて安樂寺祭を始むる事 ..... 一七〇
- 二二一 尚齒会の起源と天承元年三月藤原宗忠の尚齒会の事 ..... 一七一
- 二二二 式部大輔菅原在良、侍読として初めて鳥羽天皇の御前に参る事 ..... 一七二
- 二二三 勸学院の学生集まりて酒宴の時、惟宗隆頼自ら首座に着く事 ..... 一七三
- 二二四 宇治左府頼長周易を学ぶ事 ..... 一七四
- 二二五 宋朝商客劉文冲、左府頼長に典籍を贈る事 ..... 一七五
- 二二六 宇治左府頼長、院宣により学問料の試を行ふ事 ..... 一七六
- 二二七 藏人所にての直講の試に中原師直選ばるる事 ..... 一七七
- 二二八 少納言入道信西が家にて藤原敦周が秀句の事 ..... 一七八
- 二二九 後徳大寺左大臣実定、風月の才人に勝れたる事 ..... 一七九

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 三〇 内裏にて作文の折、高倉院御秀句の事             | 一八 |
| 三一 高倉院、中殿にて御作文の事                 | 一八 |
| 三二 権右中弁定長、北野の宮寺にて作文の事            | 一八 |
| 三三 素俊法師が秀句の事                     | 一八 |
| 三四 枇杷大納言延光の夢に村上天皇御製を賜ふ事(抄入)      | 一八 |
| 三五 後三条院御秀句の事(抄入)                 | 一八 |
| 三六 中納言顯基出家道心の事(抄入)               | 一八 |
| 三七 菅丞相大宰府に左遷の後、恩賜の御衣を拝して作詩の事(抄入) | 一九 |
| 三八 大江朝綱が願文、秀句の事(抄入)              | 一九 |
| 三九 橘正通、具平親王家の作文序に述懐の事(抄入)        | 一九 |
| 四〇 東北院の念仏の折、民部卿齊信、齊名が秀句を朗詠の事(抄入) | 一九 |
| 四一 内裏焼亡の折、村上天皇、直幹が申文を惜しみ給ふ事(抄入)  | 一九 |

古今著聞集 卷第五

和歌第六

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 四二 (序) 和歌の起源と効用の事              | 一九 |
| 四三 玄寶僧都、位記を樹枝にはさみて詠歌逐電の事       | 一九 |
| 四四 弘徽殿の女御の歌合せに文字鎖の折句の事         | 一九 |
| 四五 花山院、紅梅の御歌の事                 | 一九 |
| 四六 花山院、彈正宮の上、東院にて御歌の事          | 一九 |
| 四七 東三条院、撫子合せの事                 | 一九 |
| 四八 帯刀の陣の十番の歌合せの事               | 二〇 |
| 四九 民部卿泰憲、白紙を置きて詠歌の席より退出の事      | 二〇 |
| 五〇 齋院選子内親王、花見の殿上人に柳の枝を賜ふ事      | 二〇 |
| 五一 平等院僧正行尊、詠歌して住吉神主国基が家に宿らざりし事 | 二〇 |

- 二三 藤原基俊、小童と問答の事 ..... 二〇五
- 二四 唐人連歌の事 ..... 二〇六
- 二五 八条太政大臣実行、斎宮と和歌贈答の事 ..... 二〇七
- 二六 鳥羽法皇、御歌を諸臣に賜ふ事 ..... 二〇八
- 二七 西行法師、崇徳院の讃岐配流を悲しみ、寂念と唱和の事 ..... 二〇九
- 二八 西行法師、和歌を兵衛局に贈る事 ..... 二一〇
- 二九 二条天皇、御方違のため押小路殿に行幸御遊の事 ..... 二一〇
- 三〇 関白基実、内の女房と女御殿の女房と雪月連歌を唱和せしむる事 ..... 二一一
- 三一 二条天皇中宮育子、連歌を唱和し給ふ事 ..... 二一二
- 三二 頭中将家通、頭亮邦綱の使を引き留めて返歌の事 ..... 二二三
- 三三 いろは連歌の事 ..... 二二四
- 三四 敦頼入道道因、大納言実国を訪ひ和歌唱和の事 ..... 二二五
- 三五 瞻西上人、雲居寺を造畢し和歌曼陀羅を図絵したる事 ..... 二二五
- 三六 後徳大寺左大臣実定、住吉歌合に秀歌を詠み、明神感応し給ふ事 ..... 二二六
- 三七 広田社の歌合せに左大弁実綱、沈淪述懐の歌を詠みたる事（一部抄入） ..... 二二七
- 三八 伊通公参議の時、中納言に任せられず恨みに堪へずして辞職の事（抄入） ..... 二二九
- 三九 御堂関白道長大井川遊覧の時、四条大納言公任和歌の船に乗る事（抄入） ..... 二三二
- 四〇 白河院大井川行幸の時、民部卿経信三船に乗る事（抄入） ..... 二三三
- 四一 後三条院住吉社に臨幸の時、経信秀歌を詠じ、子の俊頼にその批評を求むる事（抄入） ..... 二三三
- 四二 能因法師の祈雨の歌と白河関の歌の事（抄入） ..... 三三四
- 四三 待賢門院の女房加賀の伏柴の歌の事（抄入） ..... 三三五
- 四四 或る女とその娘、石清水に参籠して利生を蒙る事（抄入） ..... 三三六
- 四五 和泉式部、貴布禰に詣でて詠歌の事（抄入） ..... 三三七
- 四六 小式部内侍、歌に依りて病癒ゆる事（抄入） ..... 三三八
- 四七 大江岑周、赤染衛門の歌に依りて病癒ゆる事（抄入） ..... 三三八
- 四八 鳥羽法皇の女房小大進、歌に依りて北野の神助を蒙る事（抄入） ..... 三三九

- 二六 修理大夫頼季、六条東の洞院亭にて人麻呂影供を行ふ事 (抄入) 三三  
 二七 望夫石の故事ならびにしらの姫公の歌の事 (抄入) 三三  
 二八 松浦佐夜姫の歌の事 (抄入) 三八  
 二九 内舍人なるもの、大納言の女を盗みて奥州浅香郡に逃ぐる事 (抄入) 三八  
 三〇 小野小町が壮衰の事 (抄入) 三九  
 三一 小式部内侍が大江山の歌の事 (抄入) 四〇  
 三二 大江匡衡、和歌を詠じ和琴の彈奏を斷る事 (抄入) 四一  
 三三 田舎上りの兵士の水上月の秀歌と大宮先生義定が尾上松の秀歌の事 (抄入) 四二  
 三四 物乞の法師、琴彈く女に応へて詠歌の事 (抄入) 四三  
 三五 阿闍梨仁俊、北野社に祈りて詠歌し感応ある事 (抄入) 四四  
 三六 月次御屏風の歌に平兼盛攝衣を詠じ、紀時文これを難じて恥をみる事 (抄入) 四四  
 三七 崇徳院、百首歌に同じ五文字の句を詠まざるか否かを左京大夫頼輔に問はせ給ふ事 (抄入) 四五  
 三八 花園左大臣家の侍が青柳の歌と紀友則が初鴈の歌の事 (抄入) 四六  
 三九 藤原長能、三月尽の夜の詠歌を四条大納言公任に難ぜられて病死の事 (抄入) 四七  
 四〇 別当惟方、配所にて述懐の歌を詠じ召還の事 (抄入) 四八  
 四一 後鳥羽院の御時、俊成和歌を奏して定家勅勘を免ぜらるる事 (抄入) 四九  
 四二 壬生家隆、臨終に七首の和歌を廻向の事 (抄入) 五〇  
 四三 大納言宗家の室右衛門佐、詠歌によりて再び迎へらるる事 (抄入) 五〇  
 四四 徳大寺右大臣実家、獅子形の枕に歌を隠し入れて女房に贈る事 (抄入) 五一  
 四五 大江定基、鏡壳の女の歌に依りて道心を固め、出家人唐の事 (抄入) 五一  
 四六 宗順阿闍梨、醍醐の桜会にて童舞の美童に歌を贈る事 (抄入) 五二  
 四七 丹波守玉淵が女白女、歌を詠みて禄を賜ふ事 (抄入) 五三  
 四八 河内重如、自ら女房の許に往きて艶歌を贈る事 (抄入) 五三  
 四九 和泉式部田刈る童に襖を借り、童式部に艶歌を贈る事 (抄入) 五五  
 五〇 宇治入道、頼輔の秀歌に感じその侍女を遣はす事 (抄入) 五五  
 五一 前大宮大進清輔、宝莊嚴院にて和歌の尚齒会を行ふ事 五七

|     |                                           |     |
|-----|-------------------------------------------|-----|
| 三〇〇 | 清輔所伝の人丸影の事                                | 二六三 |
| 三〇一 | 賀茂神主重保、尚齒会を行ふ事                            | 二六四 |
| 三〇二 | 隆信朝臣、和歌を大納言実国に贈る事                         | 二六四 |
| 三〇三 | 中納言実国、和歌を三位中将実定に贈る事                       | 二六五 |
| 三〇四 | 左衛門督実国家歌合せにおける頼政の秀歌に実国和歌を贈る事              | 二六五 |
| 三〇五 | 大納言実国、少将隆房の車の風流に感じ、その父隆季に歌を贈る事            | 二六六 |
| 三〇六 | 修理大夫経盛、和歌を大納言実国に贈る事                       | 二六七 |
| 三〇七 | 仁和寺の佐法印、山吹着たる童と和歌の唱和の事                    | 二六七 |
| 三〇八 | 西行法師の御裳濯歌合と宮川歌合の事                         | 二六八 |
| 三〇九 | 解脱上人、思ひ余りての詠歌の事                           | 二七〇 |
| 三一〇 | 前右大将頼朝、白筆の和歌にて下文を賜る事                      | 二七一 |
| 三一〇 | 右大将頼朝、北条時政と連歌の事                           | 二七一 |
| 三一〇 | 生侍の許にて草売り詠歌の事                             | 二七二 |
| 三一七 | 藤原家隆、土御門院御百首の合点を藤原定家に乞ひ、また後嵯峨院の百首に感涙を流せる事 | 二七四 |
| 三一八 | 松殿僧正行意の夢に鬼神家隆の歌を詠吟の事                      | 二七六 |
| 三一九 | 陰明門院中宮の時、六事の題を賜り、定家・家隆同じ古歌を書きて参らせたる事      | 二七七 |
| 三二〇 | 後鳥羽院の御時、木工権頭孝道琵琶に付けて和歌を奉る事                | 二七七 |
| 三二一 | 順徳院御位の時、藤原知家の和歌観感を蒙る事                     | 二七九 |
| 三二二 | 西音法師の秀歌観感を蒙り、後鳥羽院の宸筆を賜る事                  | 二八〇 |
| 三二三 | 法深房孝時、父孝道と不快の比、笛を取り返されて出家を遂げる事            | 二八〇 |
| 三二四 | 藤原家隆七十七歳の七月、九条前内大臣良通の許に和歌を贈る事             | 二八〇 |
| 三二五 | 後嵯峨天皇、雪の曉に冷泉前右府に御製を賜ふ事                    | 二八二 |
| 三二六 | 前太政大臣西園寺実氏、五代帝王の御筆を後嵯峨上皇に献上の事             | 二八二 |
| 三二七 | 住吉神社の修理に当り、古来の詩歌失せ果てたるを見て或る人詠歌の事          | 二八三 |
| 三二八 | 中間法師常在の詠歌に女房ども沈黙の事                        | 二八三 |
| 三二九 | 真観法師、仙洞の御会を固辞し一首の和歌を奉る事                   | 二八四 |

古今著聞集 卷第六

二八五

管絃歌舞 第七

二八五

三〇〇 (序) 管絃は讃仏敬神の庭、礼義宴飫の庭に欠くべからざる事

二八五

三〇一 貞保親王桂川の山庄にて放遊の時、廉承武が霊現はる事

二八六

三〇二 延喜四年大井川行幸の折、雅明親王万歳楽を舞ひ給ふ事

二八六

三〇三 延喜二十一年十月、八条大将保忠勅を受け舞を奏する事

二八七

三〇四 延長四年正月、桜花宴の御遊の事

二八八

三〇五 延長六年三月尽の宴の事

二八九

三〇六 延長七年三月、踏歌後宴の御遊の事

二八九

三〇七 右近将曹伴野貞行、帰徳曲に松を棄てて舞ふ事

二九〇

三〇八 天曆元年正月、内宴に重明親王琴を弾する事

二九〇

三〇九 天曆三年四月、藤花宴の御遊の事

二九一

三一〇 天曆五年正月、内宴に重明親王等管絃の事

二九一

三一〇 天曆七年十月、庚申の御遊の事

二九二

三一〇 藤原実資童の折、納蘇利を舞ふ事

二九二

三一〇 大宮右府俊家の唱歌に多政方舞を仕る事

二九三

三一〇 博雅三位生誕の時、天上に音楽ある事並びに信義双調の君と呼ばれたる事

二九四

三一〇 秘曲其駒の事

二九五

三一〇 前筑前守兼俊、笙の試に管中の平蛛を喉にのみ入るる事

二九七

三一〇 多政資、平等院一切経会に秘曲を奏する事

二九八

三一〇 大外記中原貞親、白河院の花宴に殿上人と並びて奏楽の事

二九九

三一〇 大式資通、管絃者を伴ひて金峰山に詣づる事

二九九

三一〇 筆樂吹遠理、筆樂を吹きて雨を祈請の事

三〇〇

三一〇 志賀僧正、用枝の筆樂を聴き初めて感涙の事

三〇〇

|    |                                  |     |
|----|----------------------------------|-----|
| 二三 | 後三条院、中御門大納言宗俊の筈に觀感の事             | 三〇三 |
| 二三 | 御琵琶、牧馬・玄象勝劣無き事                   | 三〇三 |
| 二五 | 琵琶の明匠大納言宗俊の事                     | 三〇三 |
| 二五 | 源義光、足柄山にて筈の秘曲を豊原時秋に授くる事          | 三〇四 |
| 二六 | 藤原博定、池の中島にて太鼓を打ち大神元正感じ入る事        | 三〇八 |
| 二七 | 前所衆延章、太鼓を打ち拍子を過つ事                | 三〇九 |
| 二八 | 嘉保二年八月院に行幸の折、柏光季賀殿地久を奏舞の事        | 三一  |
| 二九 | 長治二年正月朝觀行幸の折、中院右大臣雅定童舞の事         | 三一  |
| 三〇 | 嘉承二年三月、堀河天皇鳥羽殿に行幸ありて御遊の事         | 三三  |
| 三〇 | 堀河院、節会に急ぎ入御ありて皇帝を吹き給ふ事           | 三四  |
| 三一 | 堀河院の御時、平調の御遊に非管絃者顯雅笑はるる事         | 三四  |
| 三二 | 堀河院の御時、殿上と地下の衆敵に地下勝つ事            | 三五  |
| 三三 | 數寄者源賴能、玉手信近に従ひ横笛を習ふ事             | 三五  |
| 三三 | 知足院忠実、大権房をして咤祇尼の法を行はしむる事並びに福天神の事 | 三六  |
| 三六 | 侍従大納言成通、今様を以て物の怪の病を治する事          | 三五  |
| 三七 | 天永三年三月、御賀の後宴に御遊の事                | 三七  |
| 三六 | 京極太政大臣宗輔、陵王の乱序を吹きて神感ある事          | 三七  |
| 三六 | 久我雅実胡飲酒を多忠方に伝へ、秦公貞採桑老を多近方に伝授の事   | 三八  |
| 三七 | 多近方、採桑老を舞ひたる事                    | 三八  |
| 三七 | 大神元政、秘曲を多近方に伝授の事                 | 三九  |
| 三七 | 保延元年正月、朝觀行幸に多忠方胡飲酒を舞ひて觀感を蒙る事     | 三〇  |
| 三七 | 豊原時秋、垣代の筈の音取を勤むる事並びに大神正賢垣代の笛を吹く事 | 三三  |
| 三七 | 保延三年六月、宇治左府賴長の宿所並びに院の御所にて御遊の事    | 三三  |
| 三七 | 宇治の一切経会に、清延牙の笛吹く事                | 三四  |
| 三七 | 蘇合香演奏につき諸説ある事                    | 三五  |
| 三七 | 賴能・宗俊・宗能等万秋葉を責伏せて吹く事             | 三七  |